

町田リサイクル文化センター周辺地区連絡会（第21回）

議事要録

- 日時 2019年8月21日（水）17時00分～18時30分
- 場所 忠生市民センター 地域活動室
- 出席 委員：高橋会長、小林（静）副会長、福岡委員、川畑委員、小林（哲）委員、八木委員、守屋委員、加藤委員（尾崎委員代理）、小泉委員（小泉委員代理）、小川委員、田中委員、彦根委員、安藤委員、佐藤委員  
※なお、本文中は加藤委員（代理）、小泉委員（代理）とする。
- 欠席 1名
- 事務局 : 荻原環境資源部長、田中循環型施設建設担当部長  
循環型施設整備課：平本課長、篠塚担当課長、深澤担当課長、古屋統括係長、波戸場担当係長、竹内主任、鈴木主事  
環境政策課：宮坂課長、川瀬担当課長  
資源循環課：林課長、田中担当課長  
3R推進課：高梨課長、桑原3R普及担当課長  
コンサルタント：株式会社日建設計  
事業者：株式会社タクマ
- 傍聴者 0名
- 配布資料  
次第
  1. 確認事項  
資料1 環境保全協定について
  2. 協議事項  
資料2 愛称について
  3. 報告事項  
資料3 整備工事進捗等について  
資料4 資源ごみ処理施設整備完了までの対応について
  4. 事務連絡

## 1. 委嘱式及び開会の挨拶

### ○ 委嘱式

委嘱状を委員(5名)に手交し、荻原環境資源部長より挨拶を行った。

### ○ 開会の挨拶

田中循環型施設建設担当部長より、開会の挨拶を行った。

### ○ 市担当の紹介

新しく就任した管理職の紹介として、環境資源部長に就任した荻原、循環型施設整備課担当課長に就任した篠塚、環境政策課長に就任した宮坂、資源循環型担当課長に就任した田中の紹介を行った。

## 2. 確認事項

### ○ 前回地区連絡会の確認事項

#### 資料1 環境保全協定について

資料1と資料1補足資料の2つを用い、事務局から、2019年3月28日に締結した環境保全協定の内容とその協議経過について説明を行った。

(以下、質疑応答)

- ・川畑委員 確認だが、環境保全協定書は2つあると考えていいのか。それとも1つの中で、このバイオエネルギーセンター環境保全協定書もその中に入っているのか。
- ・高橋会長 環境保全協定書はこれ1本である。
- ・川畑委員 資料1の補足資料の表題が「バイオエネルギーセンター環境保全協定書」とあるので、2つあるのかと思った。
- ・高橋会長 逆に言うと、資料1が補足説明となるのではないか。そのような解釈でよいか。
- ・事務局 はい。
- ・川畑委員 わかりました。
- ・高橋会長 専門委員会の設置要綱、運営協議会のあり方等のスケジュールについては、この資料の中に入っていない。全体のスケジュールは極めて大事な問題であるため、

きちんとした形で提示し、進めていただきたい。

- **田中循環型施設建設担当部長** 運営協議会等に関しては、試運転が始まる2021年7月までに立ち上げることを目途に準備に入っていきたいと考えている。
- **守屋委員** 規定上は運営協議会だけではなく、専門委員会も設置するというのでよいか。
- **田中循環型施設建設担当部長** そうである。
- **田中循環型施設建設担当部長** 2021年7月からの試運転を1つの目途と考え、地区連絡会から引き継ぐ形を取らせていただきたいと考えている。この会から今度協議会へという形になるかと思う。
- **小林（静）副会長** 運営協議会の内容についてはいつ検討するのか。
- **事務局** 運営協議会の要領等については20年度中に協議を進めていきたいと考えている。
- **守屋委員** この連絡会と今度新しくできる運営協議会というのは置き換わるということか。地区連絡会は地区連絡会で続くのではないのか。運営協議会では、工場稼働の専門的なことについて協議することとし、地区連絡会のほうが古いわけだから一緒にはならないということによいか。
- **高橋会長** 説明の内容が混乱しているようなので、もう一回整理してほしい。
- **事務局** 実際稼働が始まる際には運営協議会という形でモニタリングの結果等をお示ししていくことになり、会としては別の会である。ただ、メンバーについては周辺自治会を考えているため、メンバーはそのまま引き継ぎという形になる可能性はある。
- **高橋会長** 併存するのか。それとも置き換わるのか。
- **事務局** 地区連絡会から運営協議会に置き換わることを考えている。
- **高橋会長** 私もそのように考えているが、運営協議会の内容については地区連絡会で協議しながら決めていくという話をいただいております、その検討にも時間がかかることが予想されるため、スケジュールをきちんと出していただきたい。いつまでに決めて、いつからスタートして、その時点で連絡会は廃止します等、きちんと打ち出して、検討期間を明確にした全体スケジュールを提示して頂きたい。専門委員会も同じである。専門委員会は設置要綱をいつまでに作成し、いつごろ設置するのかというスケジュールを提示して頂きたい。
- **事務局** 詳細を詰めまして、スケジュールをご提示したい。

- ・高橋会長 お願いします。
- ・守屋委員 この地区連絡会と運営協議会の移行について資料を作り、説明いただきたい。
- ・事務局 了解しました。
- ・高橋会長 それでは、よろしくお願いします。

### 3. 協議事項

#### ○ 協議事項1 愛称について

資料2を用い、事務局より愛称をつける目的やこれまでの経緯、活用事例について説明を行った後、決定方法（案）について説明を行った。

（以下、質疑応答）

- ・高橋会長 環境学習履修学年は小学校4年生か。
- ・事務局 そうです。
- ・彦根委員 町田市は先駆的に資源循環型の中でもごみの減量を主流として住民意識を盛り上げてきた。この名称は新しい設備の名称を売り込むようなものとなっており、リサイクル文化という面が薄れている気がする。町田のいいところは、各町内会、自治会、子ども会、老人会が一生懸命ごみの減量として相当な量を資源回収に回しているところである。今度は生ごみ処理問題の中で一般的な堆肥化等も一時取り入れて、リサイクル循環型に持っていこうということだったのだが、新しいバイオだけにイメージが追われてしまい、ごみの減量、リサイクルというものが欠けていくような気がする。それはどうかと思う。

ごみ問題は自治体、市町村だけでは解決できないものである。住民の方々がいかに理解し、ごみ減量に協力していくか、それを受けて、行政としてコストダウンも図れるということだと思う。過去の経緯も踏まえたリサイクルという理念を取り入れながら、この施設でリサイクルをどのように位置づけているのか、しっかりと考えていただきたい。

- ・高橋会長 全市的な取り組みとしてごみの減量というものを実質的には20年以上進めているが、残念ながら、その結果は余り理想には近づいていない面がある。一人当たりのごみ発生量で見ると、町田市は必ずしも成績がよくない状態にあり、広く市民

の認識の向上に向けて努力していかなければならない局面にあることは確かである。

それはそれとして、愛称をつける方法についてご意見はありますか。

・**彦根委員** いわゆる、住民と一体となって何を残すかという理念の中での愛称がいいと思う。私としては、循環型環境問題の中で市民参加型をどのように取り入れていくかということで愛称を考えていただければと思う。

・**高橋会長** 案の出し方、案の決め方について具体的には何かございますか。

・**彦根委員** 環境問題として取り組む前は、ごみ問題は軽視されてきた。こまめに分別すればごみは減量でき、資源化もできる。利便性を優先して混合で収集し、自治体の全責任で何でも出してくださいという理念のところもあるが、そんなに施設を大型化しないで規模を抑えてきたという町田の方針に、私は大賛成である。そこに、住民へのリサイクルの意識の浸透を図り、子どもたちに向けた方法論を学校教育の中にも含め、行政PRをしていただきたい。

そのような理念なり考え方を行政として打ち出さないと、それに対する愛称は出てこないと思う。

・**高橋会長** 将来の町田を担う小学生たちにとって、教育の良い機会なので愛称を募集するというのはいいとは思いますが、いわゆる歴史的な認識、ごみ処理の意義などを理解した上でつけてくれるかという点では、若干理解が不足しているかもしれない。

・**小川委員** 私は下小山田地区が地元であるが、バイオという名前さえ皆さん嫌っている。バイオというとてもいいもののような感じがするが、実際はごみを処理している施設である。

さらに今度は愛称をつけるということに私は非常に不満である。きれい事ではない。愛称は不要という意見が同程度あるのに、なぜ愛称をつけると決まったのか。つけるかどうかをなぜ検討しないのか。

・**高橋会長** この件は大分議論して、公式名称は「バイオエネルギーセンター」とするが、愛称をつけて通常はそれを使うということになった。

・**事務局** 愛称の要否について、一人一人に会長よりどうですかと声をかけていただいたときに、人数が半々であり決着がつかなかった経過がある。今回からの委員もいらっしやるため、昨年度までの検討経過をお示しし、もう一度、事務局の提案としてご意見を聞かせていただきたい。

・**高橋会長** それであれば、愛称をつけるべきか、つけないべきかをここで決めるとい

う書き方にしていただかないとおかしい。

- ・ **事務局** 申し訳ありません。前回までに事務局の案をお出ししていたが、委員の皆さんにご納得いただける案が出なかったということもあり、趣向を変えて、ほかから提案いただく形で新たな案が出るのではないかと事務局で考えたものである。
- ・ **田中委員** 例えば、レインボーブリッジというのは愛称であり、正式には「東京港連絡橋」という。東京港連絡橋については愛称をつけたが、四国本州連絡橋には愛称はない。また、明石海峡大橋にも愛称はない。必要かどうかはここで時間をかけて議論し、決着をつけてからにしたほうがよいのではないか。
- ・ **彦根委員** あえて言わせてもらえば、私は「町田リサイクル文化センター」でいいと思う。
- ・ **安藤委員** 私も同意見である。そのような意見は多かった。「町田市バイオエネルギーセンター」は決定なのか。
- ・ **田中委員** 市長が決めたと記憶しているが、まだ条例化はされてないのではないか。相模原市には清掃工場が2つあるが、南清掃工場と北清掃工場という名称のままである。周りにいい施設がいっぱいあり、温泉まである施設だったと思う。
- ・ **彦根委員** 公園をつくる等、相模原市はそのような環境整備に力を入れている。
- ・ **田中委員** ここ最近では日野が一番新しい施設であると思う。その施設には愛称がついているのか。
- ・ **事務局** 浅川清流環境組合の施設であるが、愛称については聞いたことがない。周辺の施設にはついてないほうが多いかもしれない。
- ・ **田中委員** 名称についてはもうある程度しようがないと思う。そのため、愛称をどうするかになる。
- ・ **川畑委員** 愛称は今決めなければならないのか。バイオエネルギーセンターという名称を町内会、自治会で知らない人がいっぱいいる。愛称は後からでもいいのではないか。今までのリサイクル文化センターからバイオエネルギーセンターに変わったと説明するだけでも大変である。
- ・ **田中委員** 完成した後に、町田市内の4年生に見学してもらい、案を出してもらう形でも遅くはないと思う。
- ・ **川畑委員** 愛称の目的は何か。バイオエネルギーセンターのイメージを変えるために作りたいということなのか。それとも、本当の意味で親しみを持つために愛称をつ

けたいということか。後者であれば、この施設そのものをもっと丁寧にわかりやすく訴えた上で愛称を募集しないと違ったイメージで出てきてしまうと思う。しかも、小学生だけでいいのかという気がする。今治市は何で小学生に募集したのか。

- **安藤委員** 今の関連で、もう1ついいですか。この名前について今まで計5回協議してきたにも関わらず、今度は小学生の意見を聞いて、それを基に決めるとは、「委員より小学生のほうが大事なのか」と僕は思った。今まで時間を割いて5回協議したことは一体何だったのか。これはおかしいと思う。
- **高橋会長** ちなみに、「リサイクル文化センター」という名前はなくなるのか。
- **田中循環型施設建設担当部長** 今のリサイクル文化センターは、新しい施設ができた後、解体に入るため、今の名前はなくなる。新しい施設の名前として9月の議会で条例改正を予定している。
- **彦根委員** 何でバイオなのかわからない。
- **高橋会長** バイオエネルギーセンターというのは、市が推奨した名前ではあるし、どうしても市としては宣伝を兼ねて「バイオ」を入れたいということであった。ただ、バイオエネルギーセンターに賛成できない人が多いということで、普通使うときはいわゆる愛称として、呼びやすい、理解を得やすい名前にしようとなった。そのため、極端な話、愛称が「リサイクル文化センター」でも構わないが、「文化」というのは明治時代の話ではないかというので、「リサイクルセンター」でもいいよと過去に申し上げた経緯もある。地元が「リサイクルセンター」でいいのであれば、それでいいのかということと、小学生に案を求めるとおそらくそうはならないだろうと思うため、どうしたものかと思う。
- **守屋委員** 5回ほど協議したということだったが、愛称をつける目的が明確でないため、いつまでたっても大した議論にならない。どうしても事務局のほうで愛称をつけたいのであれば、この連絡会の中ではなく、ほかでやっていただければいいのかなと思う。もうここで議論しても一緒のような気がする。
- **小泉委員（代理）** 代理出席で大変申し訳ないが、バイオエネルギーセンターという名称は、3月28日締結の協定書の中にも謳われており、議会で承認を得る段階に入っており、仕方がないと思う。

一方で、愛称は今議論されているように、小学生の学習にとって何が必要かといったときに、例えばバイオエネルギーというのは何だろうという疑問を抱くところがす

ごく大事である。愛称にすることで、環境問題に市民の皆さんが関心を持つのかどうかである。本当に皆さんが環境に関心を持つのであれば、別の手段でもいいのではないか。あるいは4年生の学習にとって必要なことは、正しい名前をきちんと伝えつつ、「バイオって何だろう」、「エネルギーって何だろう」ということを深め、環境に対する関心が高まることであるため、愛称をつける意味は私もわからない。それよりも、キャラクターを作る等、発展させることのほうが重要かもしれないと、議論を聞いていて思った。

- **小林（静） 副会長** 皆さんのご意見のように、急ぐことはないと思う。実際にできたところを見てなくてはイメージも湧かないため、もう少し先延ばしにしてはどうか。
- **川畑委員** 今のところ必要を感じない。
- **田中委員** 実際にできあがって4年生に来てもらうということを前提として、マスコットのようなものをつくり、それに名前をつける等の方法もあると思う。まだ早いのではないか。
- **川畑委員** 上手に訴えないと、バイオエネルギーセンターが自然エネルギーと同じようなものだと思ってしまう。勘違いしないような訴え方をして愛称を求めるという形にさせていただかなければならない。
- **高橋会長** ただ、そのようなことをきっかけにして、広く市民の意識を高めるというのは意義があると思う。小学生かどうかは別にして、広く募集するのは良いと思う。特にその意義をいろいろ説明して募集するのも必要であるし、意味があると思う。  
では、次回に、こういう趣旨で募集したらどうかというものをつくっていただけないか。最初に愛称ありきではなく、「ああ、そうだね。こういうことでやれば広く市民の意識も高まるし、新しい施設に対する理解も高まるし、やはりごみを減らそうというような意識にもつながるかもしれないね」というものを提示してもらいたい。
- **田中委員** まずこの施設を理解してもらい、愛称をつけるならどんなものか、といった手法のほうが良いのではないか。
- **高橋会長** ごみ減量の意識を高める方向で、また、新しい施設に対する理解・意義を強調してもらい、それをベースに愛称をつけるなら、という方向でまとめていただき、次回提示していただけないか。そうすれば、愛称をつける意義についてもう少し理解が深まるかもしれない。その上で、つけるべきか、つけないべきかをここで諮っていただきたい。

- ・田中委員 また、愛称をつけるのであればいつごろまでに決めたいというような市の考えを示してほしい。仮稼働までもしくは本稼働までといったスケジュールを示してほしい。
- ・高橋会長 では、そのようなことで、次回宜しく願います。

#### 4. 報告事項

##### ○ 報告事項1 整備工事進捗等について

資料3を用い整備工事の進捗状況等について、事業者より報告を行った。

(以下、質疑応答)

- ・田中委員 本体工事の件ではないが、東京電力の図師変電所から特高関連工事が長く続いている。この工事はいつごろまでかかるのか。
- ・事務局 現時点で受領しているスケジュールでは工期45カ月程度である。2021年の夏頃までの予定である。
- ・高橋会長 特高ケーブルの最終引き込みは2021年までかかるとのことなので、事業者においては、引き続き学童の安全に注意を払っていただきたい。

##### ○ 報告事項2 資源ごみ処理施設整備完了までの対応について

資料4を用い資源ごみ処理施設整備完了までの対応について、事務局より報告を行った。

(以下、質疑応答)

- ・彦根委員 今までリサイクル文化センターに運ばれたものが分散化した場合、各地区のごみのトラック台数はどの程度になるのか。リサイクル文化センターに今来ているごみのトラック台数が何台で、分散化した場合、ごみのトラックはどのくらい減るか、またごみの減量はどの程度になるのか。
- ・事務局 今日数字を持っていないため、次回改めて説明させていただく。
- ・高橋会長 解体工事のスケジュール上、今のペットボトルの処理施設などが使えなくなるのはいつになるのか。
- ・事務局 工場の解体を予定している2022年1月からは使えなくなる予定である。

- ・高橋会長 新しい資源ごみ処理施設の稼働予定が2025年と2027年であるため、その間の3年ないし5年間は代替の対応が必要ということによいか。
- ・事務局 その通り。そのため、どのような方法があるかを調査して調べている段階である。
- ・彦根委員 実際に資源ごみ処理施設計画は進んでいるのか。
- ・事務局 相原地区と上小山田地区の2カ所で説明させていただいている。相原地区については、測量を行っており、地権者と具体的な協議等を進めている段階である。上小山田地区については、施設に関連する事業として道路整備事業が予定されており、その道路の進捗に合わせて進める予定であるため、現時点では具体的には進んでいない状態である。
- ・高橋会長 我々としては、2025年、2027年というのは市から確約していただいた数字と理解している。少なくともその時期までには何らかの対策を講じるものと思っているため、そのスケジュールに従って検討いただきたい。

その他、特になければ、今日全体の残された課題のまとめをしたい。運営協議会と専門委員会の設置スケジュール並びにその設置内容について、なるべく早い時期に協議の場に出していただくということが1つめ。

また、愛称について、愛称をつける意義あるいは今の新しい施設を建設することの意義を広く市民に知ってもらい、ごみ減量につなげられるような啓蒙を含めて愛称をつける意義と募集方法等について考え方をまとめて出していただくということ。

以上2点が残ったかと思う。よろしく願います。

## 5. 事務連絡

### ○ 事務連絡 次回の地区連絡会の予定

次回の地区連絡会の開催については、改めて日程を調整させていただく。

## 6. 閉会

### ○ 閉会の挨拶

荻原環境資源部長より、閉会の挨拶を行った。

(18時30分 閉会)